

新潟市アグリパーク要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	2022年度 評価指標	2022年度実績	評価	コメント
市民	入場者数	200,000人以上/年	182,147人	C	指標を下回った。
		宿泊施設の稼働率 :39%以上/年	29.9%	C	指標を下回った。
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 :27,000人以上/年	21,321人	C	指標を下回った。
	新規就農者支援	就農支援プログラムの受講者数 :600人以上/年	928人	A	指標を大きく上回った。
	6次産業の推進	・食品加工支援講習会の開催 :70回以上/年 ・食品加工支援講習会の受講者 :470人以上/年	・食品加工支援講習会の開催 :53回 ・食品加工支援講習会の受講者 :336人	C	講習会の実施回数、受講者数ともに指標を下回った。
	広報の充実	・HPの情報更新 :20回以上/年 ・アクセス件数 :12万回以上/年	・HPの情報更新:337回 ・アクセス件数:101,079回	B	アクセス件数は指標を下回ったものの、HPの更新回数は指標を大きく上回った。
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	92.8%	A	指標を大きく上回った。
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字。
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	適正に実施	B	指標のとおり。
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	・防災訓練:2回 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアル作成済	B	指標のとおり。
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	1回	B	指標のとおり。
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	100%	A	指標を上回った。
	関係団体・地域との調整	関係機関・地域との連絡調整会議の実施 :各1回以上/年	4.5回	A	指標を大きく上回った。
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ :延べ1,000人/年以上	1,190人	A	指標を上回った。
	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ100人/年以上	0人	C	指標を大きく下回った。
	施設の稼働	年中無休	年中無休を実施	B	指標のとおり。
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	指標のとおり。
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	3.4回/年	A	指標を上回った。
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 :90%以上	93.3%	A	指標を上回った。

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

令和4年度の総来場者数は182,147人(宿泊込み185,208人)となった。新型コロナウイルス感染流行の波はあったが、行動制限が徐々に緩和されて、イベント復活開催に伴い各種体験利用者やレストラン来店者が増加し、前年度比約1割増の実績であった。今後、基本的感染対策を図りながら、ウィズコロナを前提として、さらに魅力あるプログラム・イベントの企画と利用者数確保が課題である。

教育ファーム関係では、学校は延べ171校、7,981人が来園した。前年度と比較して、利用学校は34校(1,436人)増加した。小学校の利用割合が最も高く、全体の80%を占めている。その他の学校種別では幼・保育園の10%、中学校の6%、特別支援学校の4%であり、学年別では小学校2年生の49%が最も多い。参加した学校の評価と満足度は引き続き高く、アンケートでは100%の学校から「農業体験学習を通じて発見や学びがあった」という評価を得た。一般向けでは「新潟米の食べ比べ」「野菜収穫とBBQ」など季節の農産物を絡めた体験イベントの満足度が高かった。今後の課題として、学校関連ではオープン予定のキャンパスサイトを活用しSDGsに対応した新規プログラム開発など、また一般向け体験においてもキャンプとSDGsを関連付けたプログラムやガストロノミー・ツーリズムの展開について、アグリパークならではの利点を活かして実現に取り組みたい。

食品加工支援業務関係では、農業6次産業化のペースとなる食品加工の基礎を学ぶための講座を53回開催し延べ336人が受講した。また講座以外の加工室利用は延べ343回655人が利用したが、講座回数・受講者数はほぼ前年並み、加工室利用者数は消費者心理の冷え込みによる加工食品需要低迷により減少した。なお加工室利用者の職業は84%が農業関係者であった。商品化された製品が24品、一次加工品が4品、デザイン作成が21品で、特にデザイン作成依頼が近年増加している。加工技術相談の回数は128回であった。今後も地元農産物を使用した商品の新規開発のためJAや教育機関等と連携を図るとともに、米粉加工技術の展開について可能性を探るなど6次産業化支援に努めていきたい。

就農支援事業では、常設の就農相談窓口で新規相談が10名(新規9名、後継ぎ1名)からあった。就農体験研修には、野菜栽培コース5名、果樹栽培コース2名が受講した。また農業法人の経営管理の要点を学ぶ農業経営研修に、法人経営者13名が参加した。新規・後継ぎ就農や農業法人の設立と求人等、相談内容が多様化しており、県や市(農業活性化研究センターほか)及びJAとの情報共有と連携強化が一層重要となっている。

コロナ禍で中止していた恒例イベントを復活開催し、初夏の周年祭は田植え体験を、秋の収穫祭は稲刈り体験や新潟米食べ比べを実施し、体験と美味しさを通して農業の理解を深め郷土愛を育む取り組みとして好評であった。広報の充実では、紙媒体のほかホームページやSNSにより積極的な情報発信に努めるとともに、農業体験や社会貢献の取り組みなどを前広にプレスリリースを行い、新聞各紙やテレビ各局で複数回報道され集客にも繋がった。次年度においても、直売所やレストランとは元より南区観光農園等との地域連携をより強化して各種施策を積極的に展開していくとともに、より市民に近く親しみやすい体験施設を目指した運営を行い、利用者数の安定的増大とともに、農業振興と地域の活性化などの機能発揮に努めるものとする。

所管課による総合評価(所見)

アグリパークの設置目的及び事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。
令和4年度は新型コロナウイルス感染症に係る行動制限が徐々に緩和されたこともあり、入場者数や教育ファームカリキュラムの受講者数は、指標の達成には及ばなかったものの上昇に転じている。
食品加工支援業務については、コロナ対策のため受講者数を制限したことから目標を下回ったものの令和3年度並みの受講者数を維持し参加者の満足度も高かったことから、6次産業化への効果があったといえる。また、就農支援プログラム受講者数については前年度と比較で1.5倍増と大きく上昇し、指標達成に至った。
加えて、コロナ禍で中止していた「初夏の周年祭」「秋の収穫祭」を復活開催するとともに、「新潟米の食べ比べ」を始め、新たなイベントを開催するなど、積極的に市の農業と食を発信したことを高く評価する。
令和5年度は新たな指定管理期間となったこともあり、新たにオープンしたキャンパスサイトの運営や、SDGs学習への支援など、新たな取り組みの充実を期待する。
今後もウィズコロナの時代に適した感染対策を踏まえつつ、引き続き多くの方に満足いただける施設となるよう取り組んでいきたい。